

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 一般社団法人 しなの教育福総研	所在地：386-1101 長野県上田市下之条 804-39
評価実施期間： 令和3年10月15日から4年2月28日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） (B16023) (B16022)	

2 福祉サービス事業者情報（令和4年2月現在）

事業所名：小規模多機能型居宅介護 (施設名) さんぼみち	種別：小規模多機能型居宅介護
代表者氏名：理事長 豊田 喜久夫 (管理者氏名) 管理者 小林 俊介	定員（利用人数）： 29名
設置主体：社会福祉法人 梓の郷 経営主体：社会福祉法人 梓の郷	開設（指定）年月日： 令和3年3月1日
所在地：〒390-1701 長野県松本市梓川倭 3234-15	
電話番号： 0263-31-6231	FAX番号： 0263-31-6232
電子メールアドレス：sanpomichi@salvia.nagano.jp	
ホームページアドレス：azusanosato-salvia.jp	
職員数	常勤職員： 5 名 非常勤職員 1 名
専門職員	(専門職の名称) 4 名
	介護支援専門員 1 名
	介護職員 2 名
	看護職員 1 名
施設・設備 の概要	(居室数)
	食堂・居間 1 室
	キッチン 1 室
	トイレ 3 室
	浴室 2 室 (特殊浴槽1・一般浴槽1)
宿泊室(一人部屋) 9 室 (内2室間仕切り)	脱衣室 1 室

3 理念・基本方針

○法人理念 わたしらしく、いつまでも ～生きがい、つながりあい、支えあい～
○事業所理念 1. 介護とは生き甲斐への支援である 2. 介護とはヒューマンサイエンスである

3. 介護とは地域ネットワークである
4. そして、支え合うこと

○運営方針

- ・今までの人生で培ってきた「持ち味」や「力」をさんぽみちでも発揮できる支援をします。
- ・地域に混ざり地域へつながり、地域の方が気軽に立ち寄れる、地域の拠り所となる場所をつくっていきます。
- ・スタッフが生き生きと働ける、支え合えるチームづくりを目指します。
- ・認知症などの介護が必要な状況になったとしても、大切にしたい暮らしを送れるよう本気で向き合い一緒に歩んでいきます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

社会福祉法人梓の郷は介護保険制度が始まった平成 12 年 9 月に設立され、長野県の中部、松本市 梓川地区に本拠地を置き、平成 29 年 4 月、法人グループの別の株式会社から住宅型有料老人ホームなど福祉関連事業の全面譲渡を受けます。当法人は特に平成 13 年の当介護老人福祉施設サルビアの開設以来、地域の人々のニーズに沿い、地域に根付いたサービスを拡充してきており、現在、*介護老人福祉施設、*住宅型有料老人ホーム、* サービス付き高齢者向け住宅、* デイサービス、* グループホーム、* 居宅介護支援事業所、* ヘルパーステーション、* 保育所などを展開しております。今年で 20 周年を迎え、新規事業として小規模多機能型居宅介護をスタートさせました。「わたしらしく、いつまでも」の法人理念を在宅介護サービスの分野においても、より実践してまいりたいと考えています。

小規模多機能型居宅介護は要介護度状態になっても、認知症になっても、独居でも、ギリギリまで住み慣れた自宅で暮らし続けられる支援が必要とし、まだ1年目ではありますが、実践を通してニーズにしっかり応えつつ、“既成概念”の枠を超えた、みんなが面白いと思える事業となるように尽力しています。

さんぽみちは「また行きたくなる、誰でも気軽に来られる場所」という総合コンセプトのもと、介護を必要としている高齢者のみならず、子ども、障がい者、地域住民誰もが、“ごちゃまぜ”に集える場所を目指しています。地域の方が気軽に介護、医療、健康などの相談ができると共に健やかに暮らしていける為の「備え」の仕掛けづくりを小多機に併設するコミュニティスペース「よりみち」にて順次企画して、地域が元気になるような取り組みを開始しはじめています。

法人理念の一つとして「介護とは、地域のネットワークである」とし、「自治体・医療機関・地域住民と連携し、福祉のまちづくり貢献すること」を謳っており、サービスの質の向上に積極的に取り組み、更に、地域社会に貢献しようとしています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回（ 年度）
---------------	---------------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○法人理念に沿った地域で暮らすための小規模多機能型サービスに取り組んでいました。

・法人理念に「わたしらしく、いつまでも」とし、住み慣れたまちにいつまでも暮らしたい。家族がいつでも行ける身近なところに安心をゆだねたい。支える人、支えられる人のそんな素朴な願いに、卓越した介護でお応えすると記載されています。山の緑のめぐみである清澄な空気、梓川の清流、安曇野の四季の移ろいを肌で感じながら、ふるさとを共有する。そんな願いを掲げ 20 周年を迎えた中、高齢者が住み慣れて地域で長く暮らし続けることができるように、小規模多機能型居宅介護「さんぼみち」が開設されました。事業所は地域で長く暮らせるように、自宅への「訪問」（訪問介護）を中心に「通い」（デイサービス）や短期間の「宿泊」（ショートステイ）を組み合わせた生活支援、機能訓練事業を行うなど、今の生活を地域の皆さんと目指していました。地域で望むサービス、何を望み、何の支援を受ければ住み慣れた地域で暮らせるか、そんなサービスを行っているのが「さんぼみち」でした。

○利用者・家族に必要なサービスに取り組んでいました。

・利用者から家族の都合が悪い時、日中デイサービスで入浴サービスを受け、夕食を食べて家まで送迎をしてもらい、ベッドまで移動させてもらえる、自宅で安心して生活が送れると話されていました。また、通所が利用できない利用者には訪問サービスを行っています。職員からは、家族が隣接する介護老人福祉施設に入所されているので仕事もでき面会にもいける、と聞きました。地域の要望に答える、地域の方を支える事業活動を行っていました。

○地域に根差した福祉サービスの実践に取り組んでいました。

・建物には「よりみち」としてコミュニティスペースがあり、地域の方のよりどころとなる場所を目指されて「さんぼみち」に併設されていました。よりみちは地域の方の交流の場として、ふらっと気軽に立ち寄れることができるように、運動教室、カフェ、お菓子作り等の場、ミニ図書館、困りごとの相談と幅広く活用されています（コロナ禍で安心安全の制限がある）。子どもや高齢所、障害を持った方、パパやママなど様々な年代の方の交流の場として繋がり、新たな出会いを与えられる場を目指していました。市民タイムズにも取り上げられ、今回は松本大学人間健康学部健康栄養学科の生徒が近隣住民や施設職員、「さんぼみち」利用者も参加して、発酵食品を使った料理教室が開催されるなど、高齢者が住民とつながる交流の場となっていました。年末年始など長期休みには子どもたちも利用していました。地域福祉に積極的に関わり福祉の公共性に取り組まれていました。

○思いや願いを大切に、可能な限り在宅で暮らすことを支える取り組みをしていました。

・小規模多機能型居宅介護の支援内容は、細かく定められていません。ひとり一人の暮らしが異なるように、その人にあったサービス内容が組み込まれています。今までは、施設の中で暮らす入所やグループホームでしたが、この制度は通いを中心に生活を支えています。生活や暮らし全体で、困っていることは何か、自宅での暮らしを成り立たせるためには、何が必要か、柔軟な支援が繰り広げられていました。どんな暮らしをしたいか、どんな介護をうけたいか自己決定できる取り組みができていました。

◇特に改善する必要があると思う点

○職員の理解と周知に一層の取り組みを希望します。

・小規模多機能型居宅介護サービスは開所されて間もなく、新しい福祉に取り組まれています。法人の理念に基づき事業所の目指している内容、地域に開かれた福祉への理解と、地域への発信について、職員の理解と周知に一層の取り組みを希望いたします。

○安全対策と地域との協力体制についての取り組みを希望します。

・近くに大きな河川があり年 2 回の水害を含む災害訓練が行われています。自治体等地域の協力体制の強化、地域への災害時の協力への取り組みをお願いいたします。また地域に開かれ、生き生きとしたつながりが多くあります、利用者の感染症対策を徹底されることを希望いたします。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目(別紙 1)
- ・ 内容評価項目(別紙 2)

8 利用者調査の結果

調査対象者が 10 名未満ですので公表いたしません。

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント(別添 4)